

はじめての「適切なケアマネジメント手法」実践ガイド 活用のための説明書 ～考え方編～

「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド」とは

- 「適切なケアマネジメント手法」は基本ケアだけでも44項目の想定される支援内容があります
- 「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド」は、**高齢者の世帯類型**に着目し、**少なくともこれだけは着目した方が良いと考えられる想定される支援内容を抜粋したものです**
- まずは本ガイドを実践することで、「適切なケアマネジメント手法」の活用のイメージを掴みましょう
- 本ガイドを実践して、個々の事例に係る悩みが出てきた場合は、**1人で判断せず、先輩ケアマネジャーにご相談ください**



活用のフロー

- 本ガイドを使う前に、まずは**
✓ 適切なケアマネジメント手法の手引き
✓ 手引きの解説動画
をご覧ください

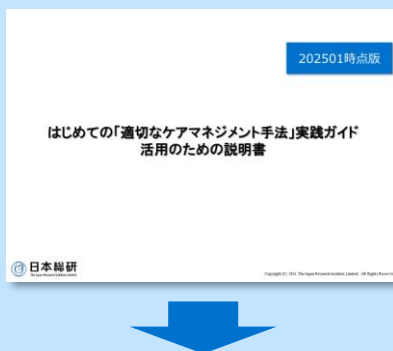


第1章 「適切なケアマネジメント手法」 ってなんだろう？

適切なケアマネジメント手法
の手引き解説



次に「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド活用のための説明書(本資料)」をご覧の上で、はじめての「適切なケアマネジメント手法」実践ガイドを実践ください



「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド」を使ってさらに知りたいと思った箇所は下記のツール類で学習してください

- ✓ 全項目を見てみたい
 - 項目一覧
 - 自己点検シート

研究の目的・意義 研究の目的 研究の意義	研究の経緯・背景 研究の経緯 研究の背景	研究内容・方法 研究内容 研究方法		研究の成果・結論 研究の成果 研究の結論	研究の展望・今後の課題 研究の展望 今後の課題
		研究の目的・意義	研究の経緯・背景		
研究の目的・意義 研究の目的 研究の意義	研究の経緯・背景 研究の経緯 研究の背景	研究の目的・意義 研究の目的 研究の意義	研究の経緯・背景 研究の経緯 研究の背景	研究の成果・結論 研究の成果 研究の結論	研究の展望・今後の課題 研究の展望 今後の課題
		研究の目的・意義 研究の目的 研究の意義	研究の経緯・背景 研究の経緯 研究の背景		

- ✓ 各項目の解説を見たい
 - 適切なケアマネジメント手法本編
 - 手引きその2



- ✓ 手法の活用事例を知りたい
 - 手引きその2

- 1. 「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要**
- 2. 「基本ケア」の構成と項目**
- 3. 想定する活用場面**
- 4. 本ガイドのねらいと概要**

1.「適切なケアマネジメント手法」のねらいと概要

「適切なケアマネジメント手法」とは

- 「適切なケアマネジメント手法」とは、介護支援専門員の先達たちが培ってきた知見の中で共通化できる知見に着目し、体系化したもの
- 根拠に基づいた知見と、それを踏まえた「仮説」を持ってから情報収集・共有を進めるという考え方に基づいてまとめられている
- 介護支援専門員だけではなく、他の職種とともに地域全体で活用することを目指している



この状態だと、
こういう支援が必要かも？



“あたり”をつけて効率よく個別化を行う

- 情報収集の前に根拠のある“あたり”を持つことは、専門職としての知識と経験に裏付けられた意味のあるもの。「適切なケアマネジメント手法」は、根拠のある知見を整理しているので“あたり”の精度を高めるために活用できる

(インテークの一例)



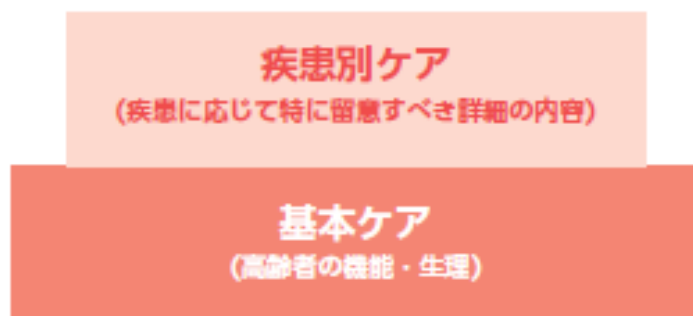
脳血管疾患の既往があって今度退院する方です。ご夫婦でお暮しですよ。少し麻痺が残っているけど、在宅生活を続けていきたいそうです。



こんな支援が必要かも？
病棟の情報を聞いてこよう。
遠方の家族はどう思っている？
福祉用具も考えなきゃ。

「基本ケア」と「疾患別ケア」で構成される

- 「基本ケア」は、本人の生活の継続を支援する基盤となる支援内容であり、高齢者の機能と生理を踏まえたケアである
- 「疾患別ケア」は、疾患に特有な検討の視点あるいは可能性が想定される支援内容を整理している
- まず「基本ケア」を踏まえ、本人の状態に応じて「疾患別ケア」を参照することが望ましい



基本ケアを押さえたうえで
疾患別のケアを押さえる



疾患や状態によらず、
共通して重視すべき事項

これまでに整理した「疾患別ケア」

脳血管疾患

大腿骨頸部骨折

心疾患

認知症

誤嚥性肺炎の予防

想定される支援内容からアセスメント/モニタリング項目がつながっている

- 「適切なケアマネジメント手法」では、「基本ケア」あるいは各「疾患別ケア」において、

①想定される支援内容

②支援の概要、必要性

③適切な支援内容とするためのアセスメント/モニタリング項目 等を整理している

①想定される支援内容

疾患への医療的なアプローチにとどまらず、本人や家族の疾患への理解促進や、状況が変化した際の体制構築など、ケアマネジメントが果たすべき役割を踏まえたもの

②支援の概要、必要性

どのような支援を、誰が行うか、さらにはその支援がなぜ必要になるかを列挙したもの

③適切な支援内容とするためのアセスメント/モニタリング項目

想定される支援内容ごとに、その必要性や妥当性を判断するために確認すべき主なアセスメント/モニタリング項目、その際に相談すべき専門職を列挙したもの



2.「基本ケア」の構成と項目

「基本ケア」とは

- 「基本ケア」とは、生活の基盤を整えるための基礎的な視点であり、利用者に疾患等がない場合でも、また疾患が複数ある場合でも共通するもの
- 「疾患別ケア」を検討する前に、「基本ケア」理解し、視点の抜け漏れや情報収集に不十分がないかを確認する

尊厳の保持 自立支援

生活の継続をできるだけ実現



生活の基盤を整えるための基礎的な視点



「基本ケア」の構造

- 介護保険法や地域包括ケアシステムの基本理念を踏まえ、「なぜ、その支援内容を想定すべきなのか？」を示しているのが「基本方針」である
- そして、基本方針のの実現のために何をすべきかを示すのが「大項目」、「中項目」である
- この構造を念頭に、「想定される支援内容」の上位の項目も併せて読み込み、「何のための支援」として整理されているかを意識して捉えていただきたい



「基本ケア」の概要

- 「基本ケア」は、基本方針から始まり、大項目、中項目と具体化され、その下にさらに具体的な支援内容が整理されている

基本方針		大項目	中項目
I	尊厳を重視した 意思決定の支援	現在の全体像の把握と生活上の将来 予測、備え 意思決定過程の支援	病気や心身状態の理解 現在の生活の全体像の把握 目指す生活を踏まえたリスクの予測 緊急時の対応のための備え 本人の意思を捉える支援 意志の表明の支援と尊重 意思決定支援体制の整備 将来の生活の見通しを立てることの支援
II	これまでの生活の 尊重と 継続の支援	予測に基づく心身機能の維持・向上、フ レイルや重度化の予防の支援 日常的な生活の継続の支援 家事・コミュニティでの役割の維持あるい は獲得の支援	水分と栄養を摂ることの支援 継続的な受診と服薬の支援 継続的な自己管理の支援 心身機能の維持・向上の支援 感染予防の支援 生活リズムを整える支援 食事の支援 暮らしやすい環境の保持、入浴や排泄の支援 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援 コミュニケーションの支援 家庭内での役割を整えることの支援 コミュニティでの役割を整えることの支援
III	家族等への支援	家族等への支援 ケアに参画するひとへの支援	支援を必要とする家族等への対応 家族等の理解者を増やす支援 本人をとりまく支援体制の整備 同意してケアに参画するひとへの支援

☒ 具体的な項目は
こちらからご覧ください

基本ケア項目一覧



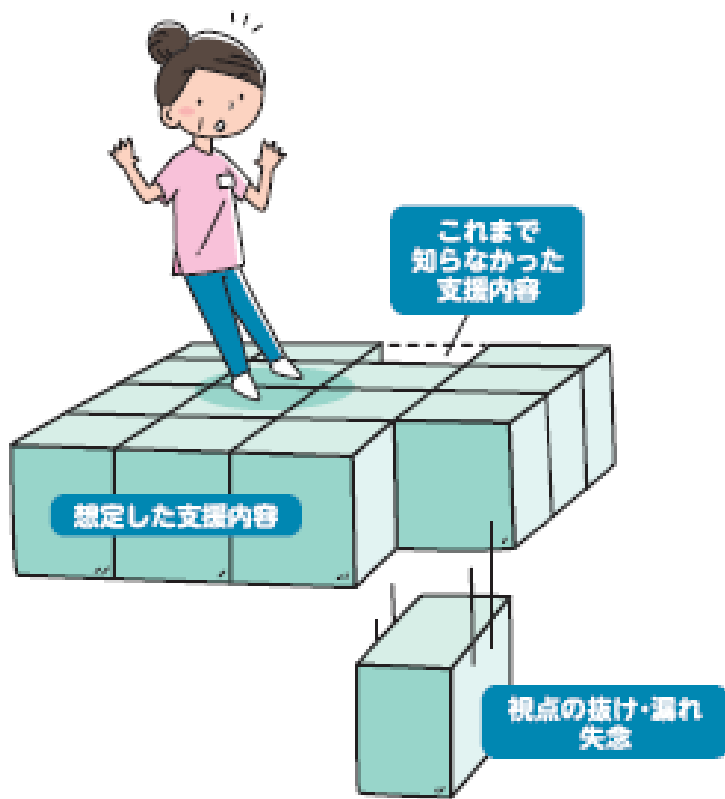
日本総研

The Japan Research Institute, Limited

3. 想定する活用場面

「適切なケアマネジメント手法」を使う意義

- 「適切なケアマネジメント手法」を活用することで、アセスメント/モニタリングが効果的にでき、
 - ① 支援内容やアセスメント項目の「抜け漏れ」を防げる
 - ② 他の職種との協働や役割分担を進めやすくなる
 - ③ ケアプランの見直し(状態の変化に応じた支援の見直しや追加の判断)がしやすくなる



本人や家族に合わせた
個別的な支援内容を
実現しやすくなる



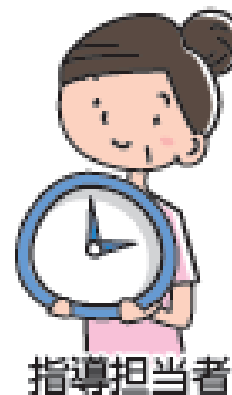
こんな場面で使おう ～介護支援専門員：アセスメントやケアプラン原案作成～

- 「適切なケアマネジメント手法」を、自分の普段のケアマネジメント実践を振り返るチェックリストのような形で活用することで、支援の方法を効率的に見極めたり、情報収集や支援の抜け漏れの可能性に早めに気づくことができる
- 気づいた視点について、サービス事業所や他職種とともに情報収集・共有を進めることで、個別化のための掘り下げた情報の把握や具体的な支援内容の検討がやりやすくなる



担当事例で支援内容をもう少し広げたいから確認してみよう

ここ数ヶ月の事例を振り返るときのポイントを見てみよう



4. 本ガイドのねらいと概要

【再掲】「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド」とは

- 「適切なケアマネジメント手法」は基本ケアだけでも44項目の想定される支援内容があります
- 「はじめての『適切なケアマネジメント手法』実践ガイド」は、**高齢者の世帯類型**に着目し、**少なくともこれだけは着目した方が良いと考えられる想定される支援内容を抜粋したものです**
- まずは本ガイドを実践することで、「適切なケアマネジメント手法」の活用のイメージを掴みましょう
- 本ガイドを実践して、個々の事例に係る悩みが出てきた場合は、**1人で判断せず、先輩ケアマネジャーにご相談ください**



本ガイドの構成

- 行動基準やチェック項目の他に、利用における基本的な考え方やケアマネジメント実践における留意点をまとめています
 - （１）本ガイドについて
 - （２）本ガイドの基本的な考え方
 - （３）ケアマネジメントの実践における留意点
 - （４）実践チェック
 - 重点を置く領域
 - 想定される支援内容
 - 行動基準（目的と具体的な内容）
 - チェック項目
 - （５）情報が収集できなかった場合の対応



基本的な考え方①独居世帯の初回アセスメントでの活用例

- 本ガイドは、高齢者の世帯類型に着目し、ケアマネジメントのある場面において、「適切なケアマネジメント手法」の中でもどのような項目に着目し、どのような取り組みが考えられるのかを例示したものです。
- 「独居世帯」の初回アセスメントでは、以下のような可能性を想定したうえで情報収集することが大切ですから、本手法に照らすと、まず次頁に示すような項目に着目することになります。

独居世帯で想定しておく必要のある仮説

- 同居者がいる場合の事例と比べて、住み慣れた場所での暮らしを将来にわたりどのように続けられるかについて、漠然とした不安を抱えている可能性も大きい。また、心身の状況の緩やかな変化を捉えることができる人（同居者がいる場合であれば同居者など）があまりおらず、心身の状況の変化の兆候を捉えにくい可能性が大きい。
- 同居者等がいる場合に比べて、本人の意向を知る人が少なくなるリスクがある。したがって、本人の意向その背景にある想いやストレングスなどを捉えることがより重要になります。
- 「基本ケア」の中でも特に本人の尊厳を重視した生活の意向の把握と、心身の状況特に健康状況の維持を支える基本的な状況の把握を確実に実施する必要がある。



本ガイドに出てくる基本ケアの項目

- 基本ケアの44項目のうち、「独居世帯」の初回アセスメントにおいて、必ず確認すべき項目を絞り込むと、特に以下のような項目が考えられます

独居世帯に登場する項目

基本方針	大項目	中項目	想定される支援内容
I 尊厳を重視した意思決定の支援	現在の全体像の把握と生活上の将来予測、備え	疾病や心身状態の理解	1 疾患管理の理解の支援 3 口腔内の異常の早期発見と歯科受診機会の確保
		現在の生活の全体像の把握	5 望む生活・暮らしの意向の把握 6 一週間の生活リズムとその変化を把握することの支援 7 食事及び栄養の状態の確認 8 水分の摂取状況の把握の支援 10 家族や地域での活動と参加の状況及びその環境の把握の支援
			11 口腔内及び摂食嚥下機能のリスクの予測
			14 緊急時の対応
		意思決定過程の支援	17 意思決定支援の必要性の理解
		予測に基づく心身機能の維持・向上、フレイルや重度化の予防の支援	24 継続的な服薬管理の支援 25 体調把握と変化を伝えることの支援
II これまでの生活の尊重と継続の支援	家事・コミュニティでの役割の維持あるいは獲得の支援	喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援	35 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援

基本的な考え方②高齢者のみ世帯の初回アセスメントでの活用例

- 本ガイドは、高齢者の世帯類型に着目し、ケアマネジメントのある場面において、「適切なケアマネジメント手法」の中でもどのような項目に着目し、どのような取り組みが考えられるのかを例示したものです。
- 「高齢者のみ世帯」の初回アセスメントでは、以下のような可能性を想定したうえで情報収集することが大切です。本手法に照らすと、まず次頁に示すような項目に着目することになります。

高齢者のみ世帯で想定しておく必要のある仮説

- 同居者にも健康面や日常生活における課題が生じる可能性がある。同居者を単なる介護力として見るのではなく同居者の状況の変化や支援の必要性も捉えることが重要である。
- 同居者の入院・入所や死別等により独居世帯に移行していく可能性を考慮しておくことも重要だ。同居者を介護力として頼り過ぎることなくケアマネジャー等の支援者が現状を捉え、ご本人のストレングスを引き出して自分でできることを継続できるように支える観点が必要である。
- 「基本ケア」の中でも特に本人の尊厳を重視した本人及び同居者の生活の意向の把握、本人の理解度やセルフケアの状況の把握に加え、同居者自身の支援の必要性及び同居者の支えとなる環境の把握を確実に実施する必要がある。



本ガイドに出てくる基本ケアの項目

- 基本ケアの44項目のうち、各世帯類型において、必ず確認すべき項目を絞り込み、チェック項目としてまとめたものです

高齢者のみ世帯に登場する項目

基本方針	大項目	中項目	想定される支援内容
I 尊厳を重視した意思決定の支援	現在の全体像の把握と生活上の将来予測、備え	疾病や心身状態の理解	1 疾患管理の理解の支援
		現在の生活の全体像の把握	5 望む生活・暮らしの意向の把握
			7 食事及び栄養の状態の確認
			8 水分の摂取状況の把握の支援
			10 家族や地域での活動と参加の状況及びその環境の把握の支援
	緊急時の対応のための備え	緊急時の対応のための備え	14 緊急時の対応
II これまでの生活の尊重と継続の支援	意思決定過程の支援	意思の表明の支援と尊重	17 意思決定支援の必要性の理解
	予測に基づく心身機能の維持・向上、フレイルや重度化の予防の支援	継続的な自己管理の支援	25 体調把握と変化を伝えることの支援
	家事・コミュニティでの役割の維持あるいは獲得の支援	喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援	37 本人にとっての活動と参加を取り巻く交流環境の整備
III 家族等への支援	家族等への支援	支援を必要とする家族等への対応	40 家族等の生活を支える支援及び連携の体制の整備
			41 将来にわたり生活を継続できるようにすることの支援
		家族等の理解者を増やす支援	42 本人や家族等にかかわる理解者を増やすことの支援

本ガイドを活用する際の留意点

- 本ガイドは、適切なケアマネジメント手法を事例に即して活用するに当たり、活用のイメージを持ちやすいように検討されたものです
- 一方、本ガイドに載っている視点は、適切なケアマネジメント手法の「基本ケア」及び「疾患別ケア」のごく一部に過ぎません
- したがって、本ガイドを活用する際は以下の点にご留意いただき、ご使用ください

本ガイドが
全てではない

- 本ガイドは、「独居世帯」あるいは「高齢者のみ世帯」の初回インテークの場面を想定して、「基本ケア」の中でも特に重視すべきと考えられる視点を示したものです
- 本来、「基本ケア」も44項目理解し、事例の状況に応じて活用すべきで、本ガイドはあくまでも**学習のきっかけとして活用ください**

「適切なケアマネジメント
手法」本編の学習に繋ぐ

- 本ガイドの活用により、事例に即してこの手法の活用イメージを持った後は、ぜひ「**適切なケアマネジメント手法**」の本編を手にとって**学びを深めましょう**
- また、本ガイドに関連して、**個々の事例に係る悩みが出てきた場合は、先輩ケアマネジャーにご相談ください**



本ガイドを活用する効果

- 回答を通じて情報収集・共有の抜け漏れに気が付く、回答をきっかけに多職種と連携した情報収集・情報共有を意識するなどの効果が確認されています

情報収集・共有の抜け漏れに気が付く

多職種と連携した情報収集・情報共有を意識するきっかけになる

適切なケアマネジメント手法の構造を簡単に学ぶことができる

各世帯類型のケアマネジメントの留意点を学ぶことができる

適切なケアマネジメント手法を学ぶきっかけとなる



さっそく使ってみましょう！

はじめての「適切なケアマネジメント手法」実践ガイド
○高齢者のみ世帯の方の個々の事例について、(再)アセスメント時点での実践状況を自己点検しましょう

高齢者のみ世帯

(1)本ガイドについて

・本ガイドは「適切なケアマネジメント手法」を踏まえた質の高いケアマネジメントを実践するうえで、高齢者のみ世帯で生活を送る方の事例のうち、本人の要介護度が比較的低度であり、これらも在宅生活が当分続く見込みの事例について、初回あるいは再アセスメント時点で、少なくともこれだけは確実に実施すべきと考えられる情報収集等の実践事項を抽出し、リストにしたものです。
・全ての事例について、少なくともこれだけは実施しておきたいという視点あるいは行動の基準であり、これだけを実施すれば良いというものではない点に留意ください。

(2)基本的な考え方

・本ガイドを使う前に、まず「基本ケア」の全体像（基本方針・中項目・想定される支援内容）の理解を深めましょう。
・「基本ケア」は生活の継続を支える基盤となるもので、原則は疾患の有無や同居者の有無などに関係なく、全ての要介護高齢者の支援において必要性を検討すべきものです。ただし、(再)アセスメント時点で一気に全ての支援内容の情報を収集するのは現実的ではないため、どの領域に重点を置くかを見極めて詳細な情報収集を実施することが大切です。

【高齢者のみ世帯の方であってこれらも在宅生活が当分続く見込みの事例において、想定しておく必要のある仮説】

・高齢者のみ世帯の方の場合、同居者にも健康面や日常生活における課題がある、あるいはこれから新たに課題が生まれる可能性があります。したがって、ご本人と同居者それぞれの意向やストレングスを最大限に尊重しつつも、同居者を単なる介護力として見るのではなく同居者の状況の変化や支援の必要性も捉えることが重要です。
・また、同居者の状況にもよりますが、長く続いていく在宅生活のいずれかの時点において、同居者の入院・入所や死別等により独居世帯に移行していく可能性を含んでいると考えておくことも大切です。この観点からも、同居者を介護力として頼り過ぎることなくケアマネジャー等の支援者が現状を捉え、ご本人のストレングスを引き出して自分でできることを継続できるように支える視座が必要です。
・したがって、高齢者のみ世帯の方であってこれらも在宅生活が当分続く見込みの事例における(再)アセスメントでは、「基本ケア」の中でも特に本人の尊厳を重視した本人及び同居者の生活の意向の把握、本人の理解度やセルフケアの状況の把握に加え、同居者自身の支援の必要性及び同居者の支えとなる環境の把握を確実に実施する必要があります。

(4)実践チェック（少なくともこうした情報収集は実施しておきたいという行動の基準）

①本人及び同居者の尊厳を重視した生活の意向の把握

重点を置く領域			規定される支援内容 (番号は「適切なケア マネジメント手法」一覧に 示すもの)	行動基準（目的と内容）	※実施したものに○を、それ以外のものには×を付けてください。 ※項目内容について実施した場合は、その結果に問わず○を付けてください。			課題と対応策	QRコード
基本方針	大項目	中項目			項目	チェック欄 年 月 日	チェック欄 年 月 日		
尊厳を重視した意思決定の支援	え	現在の生活の意向の把握	5 望む生活・暮らし の意向の把握	本人及び同居者が現在の暮らしをどのように捉え、この先の生活についてどのような意向や不安を持っているかを多角的に把握するために、ご本人の想いを直接捉えるとともに、ご本人以外の方からもご本人の意向を把握し、ケアチームメンバーに共有する	今の住まいでの現在及びこれからの暮らしをどう捉えているか ① かをケアマネジャー自身がご本人、同居者それぞれのお話を聞き取りした			(チェックが付かない項目がある場合、課題と対応策)	
				10 家庭や地域での活動と参加の状況及びその環境の把握の支援	現在（入退院があった場合は入院前）の家庭や地域で担っている役割、及びその活動の機会を維持したり増やしたりする可能性を探るため、ご本人および地域の多様な主体の状況を把握する	④ ご本人及び同居者それぞれから普段の活動を聞き取りした ⑤ ご本人が大切にしている役割がどのようなのかを、ご本人及び同居者それぞれから聞き取りした			(チェックが付かない項目がある場合、課題と対応策)
	意思決定支援過程の支援	意思の表明の支援・尊重	17 意思決定支援の必要性の理解	日常生活を継続するうえでさまざまな意思決定（必ずしもACPだけに留まらない）を支援する必要性を検討するため、どのようにしてご本人の意思決定を支援するかについて、同居者及び同居以外の家族等も含めてその必要性と方針を共有する	⑥ 普段の生活で利用するサービスの決定など日常的な判断に対するご本人の思い、不安について、ご本人及び同居者それぞれから聞き取りした ⑦ 普段の生活で利用するサービスの決定など日常的な判断について、相談することがある人（ご本人から見たキーパーソン）が誰かを、ご本人から直接聞き取りした ⑧ キーパーソン（同居者にとって頼りに出来る人の有無を含む）が誰かを、同居者から直接聞き取りした ⑨ 介護サービスに使える金額の水増しと金銭管理の方法について、ご本人及び同居者それぞれから聞き取りした			(チェックが付かない項目がある場合、課題と対応策)	

まずは基本的な考えや留意点をよく読んでください。

実践チェック項目だけを読むのではなく、**基本方針～想定される支援内容、行動基準を**読んだ上で考えましょう。

チェック欄は2か所準備しています。
気になった事例は、**半年～1年後に再点検してみよう。**

チェックが付かなかった項目、よくわからなかった項目は**QRコードから詳細を確認しよう。**

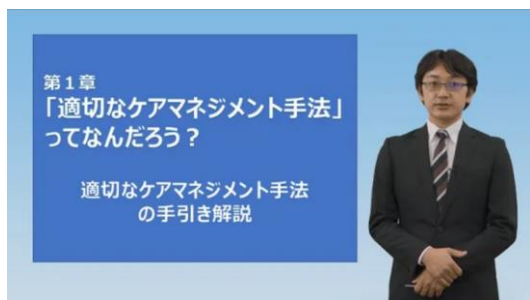
項目について**課題に思った点やその対応策をメモしておきましょう。**
思いつかない場合は、**必ず先輩ケアマネジャーに相談してください。**

卷末參考資料

【参考】復習



適切なケアマネジメント手法の手引き



手引きの解説動画

1章 適切なケアマネジメント手法って何だろう？



2章 基本的な考え方



4章 基本ケアの説明

